

たいきんぼく No.1

小平市立小平第十三小学校

十三小は、多くの人々の願いと、多くの人々のなみなみならぬ苦心と暖かい協力とによって誕生しました。

わたしたちは、新しく出発した学校の歴史の第一歩に足をふみ入れる者として、微力を尽して学校の建設に邁進することを誓いあいました。

申しあげるまでもなく学校の教育活動は、「こういふこともに育てたい」という願い、つまり教育目標を中核

として、計画的に営まれるものであります。

本校では、父母のみなさんの期待や先生方の意見などを総合して、二つのねらいを定めました。

明るく元気なことも

なかよく助けあうことも

このねらいを達成するために、さらに学年別に具体化して教育活動を進めているわけですが、ご家庭でもお子さんの毎日の生活の中で指導の手がかりとして考えていただきますと思います。

第一に健康であること、それは

元気なことも、助けあうことも

校長

親として何よりも願うことであります。身体のだこも悪くないという自覚、それは明るく元気な生活態度の基盤となります。

長い人生には、酷暑の夏もあれば風雪の冬もあります。その苦難にうち勝って、苦しみにも悲しみにも耐えていく勇氣と希望、それは身体と心の健康によって支えられるのです。

次に、学校は友だちをつくるどころだと言われています。子ども

は両親ひとりひとりの子どもとして成長していると同時に、学校という集団の中のひとりひとりとして成長をつづけているのです。

成長の途中でともに手をたさずえて進んだ友だちこそ一生のたからです。それは学校でこそ学べるのです。友だちどうし助けあひはげましあう友情を育てたいと思います。

明るく元気なことも
なかよく助けあうことも

この二つのねらいは、右のような考えのもとにきめられた本校教育の二本の柱であります。

もちろん、この目標を達成することはたやすいことではありません。しかし一歩一歩努力を積み重ねていけばやがて目標に達することも出来ると思います。そのためにはどうしてもご家庭のみなさんの協力が必要なのです。

もし学校と家庭がなんの連絡もないまゝにそれぞれ全く別のことを考えて子どもの指導を進めていくとしたら、教師と父母の考えの違いから、子どもはどのようになっていることが正しいのか迷ってしまうにちがひありません。

学校と家庭が教育目標をねらいとして協力しあう。これによってこそ、教育の効果をあげることができるのです。

学校、家庭ともどもに手を携えて、子どもの成長に尽そうではありませんか。



校庭の

除草作業終わる

夏休みで、子どもたちが留守の間、校庭は野草の天国になりました。野草は、ま夏の太陽の光を浴びて、どんどん成長して、おとなの腰ほどにも伸びました。

号令台の附近や、植木のまわりは、休み中に登校した子どもたちや職員で、除草作業に精を出しましたが、とうてい、野草のはびこるのには追いつけません。

二期が始まって、学校では「第一週中に校庭をきれいにしましょう。」という計画を立てました。と同時に、おかささんが自発的に除草作業に参加してくださいました。初めは五・六人、次ぎの日は二・三〇人、四・五〇人とだんだんと多数の方のご協力を得ました。おかげで、予定の三日前に、校庭には草が一本もなくなりました。これで、体育の授業をするにも、子どもたちがかけまわって、遊ぶのにも、よい環境となりました。

十月の運動会をひかえ、校庭を歩りまわったり、リズム運動の練

習をいたします。元気いっぱい頑張りました。

(環境整備係)

父母会

ごくろうさまでした

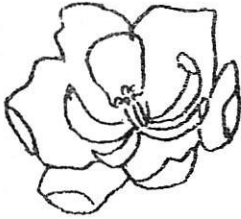
五年の父母会を最後に、予定されておりました父母会が、全部終了しました。

父母会にご参加くださった方は、

- ・一年……………七一名
- ・二年……………三九名
- ・三年……………四二名
- ・四年……………三七名
- ・五年……………三二名

(計二二一名)

となっており、全世界の六割五分ほどの参加率となっております。多数ご参加ありがとうございました。



清く 明るく たくましく

「たいさんぼく」の ように

「明るく、じょうぶな子ども」これは、十三小の教育のめあてであり願いです。

六月一日。わたくしたちは待ちに待った新しい校舎に移ってきました。そのとき、子どもたちといっしょに、校門のところに「たいさんぼく」を記念に植えました。そして、この木のよりに、みんな清く明るく、そして、たくましく伸びようと話し合いました。

まっすぐに力強く伸びた幹と枝。青々とした厚い葉。そこに咲く花は、白く大きく堂々として泰山を思わせます。そして、この木に、十三小の子どもたちの夢と希望が秘められているように思われます。

まだ、木の背も低く花も多くはありません。しかし、来年はことしよりも背も高く伸びたくさん花が咲くでしょう。子どもたちの成長といっしょに――。